

# NEWSLETTER

## 比較経済体制学会

No.45 June 2013

---

### Contents

- ・新役員体制決まる！
- ・新代表幹事からのご挨拶
- ・2013年度比較経済体制学会第53回全国大会を終えて
- ・2013年度比較経済体制学会第12回秋期大会のお知らせ
- ・編集委員会からのお知らせ
- ・比較経済体制学会第53回会員総会議事録
- ・役員選挙結果
- ・新入会員のご紹介
- ・幹事会だより
- ・2012年度会計報告および2013年度学会予算
- ・学会ニュース：岩崎一郎会員がロシア応用経済学国民賞選考委員会より表彰
- ・事務局だより

---

### 新役員体制決まる

今大会の総会では新役員選挙が行われ、新しい役員体制が決まりました。新しい幹事に選出されたのは、東日本地区（五十音順）岩崎一郎（一橋大学）、木崎翠（横浜国立大学）、雲和広（一橋大学）、田畑伸一郎（北海道大学）、酒井正三郎（中央大学）、鈴木拓（帝京大学）、栖原学（日本大学）、丸川知雄（東京大学）、道上真有（新潟大学）各会員、西日本地区（五十音順）上垣彰（西南学院大学）、田畑理一（大阪市立大学）、徳永昌弘（関西大学）、溝端佐登史（京都大学）、堀江典生（富山大学）各会員で、会計監査には斉藤久美子（和歌山大学）、小西豊（岐阜大学）両会員が選出されました。

そして、第1回幹事会におきまして新しい代表幹事には田畑理一幹事が選出され、事務局長には、幹事会指名により道上真有会員が選出されました。また、会計担当事務局幹事には岩崎一郎会員が、会員入退会・名簿管理担当/Web担当には堀江典生幹事が選出されました。

このほか、2013年秋期大会（日本大学）では菅沼桂子大会組織委員長、林裕明プログラム委員会委員長、2014年全国大会（山口大学）では阿部新大会組織委員長、といった布陣となっております。

新しい体制のもとで、なお一層会員の皆様にはご協力をお願いいたします。

（事務局）

## 新代表幹事からのご挨拶

久保庭氏の後を受けて代表幹事の大役を務めることになり、身が引き締まる思いをしております。私たちの年頃はいわゆる団塊の世代の真っ只中で、何かにつけて話題になってきました。受験にせよ、大学のマスプロ化にせよ、大学紛争にせよ、昨今の大量退職にせよ、日本経済全体に歪みを生じさせるほどの影響を与え続けてきた世代ですが、これは日本に限らず、世界的にも先進諸国では、第2次世界大戦終了後間もなく大量に生まれた世代であるが故の一種の世代的な「業（ごう）」としてあったかのような観があります。我が学会についても若返りと世代交代が進んでいますが、学会の規模については停滞し続けているように思われます。我が学会もしっかりと存続をはかっていく必要があると考えます。

中東欧諸国のソ連圏からの離脱とソ連の崩壊からすでに20年以上が経過し、EUに加盟した中東欧諸国では、EU自体の財政・金融システムの屋台骨が揺らぐという事態に陥り、それぞれのEU内移行経済諸国の動向には目が離せない状況が今後も続くと思われれます。他方で、90年代の大混乱をアメリカ主導のバブルに起因した油価高騰に助けられて、経済発展を遂げたロシアおよび旧ソ連諸国は、今後において可能であるかどうかは別として、脱資源依存、工業の再開発、社会の近代化が依然として大きな課題であると考えられます。

2008年の世界金融危機後の世界で世界不況を下支えしたのが今や大国となった中国であったことは否定しがたいことですが、近年の経済の過熱とバブル化に対して引き締めを転じ、最近

では、成長率の低下、金融制度全般の改革といった巨大な問題が控えており、世界にとっても大きな懸念を生じさせています。今や日本を抜いてアメリカに次ぐ経済大国になった中国の動向は、中国国内だけではなく、世界全体に対してもきわめて巨大な影響を与えることがひしひしと感じられている昨今です。その中国に関しては伝統的にGDP統計を始めとする統計全般の不透明さや近年注目されているシャドー・バンキングといった深刻な問題もあり、そうであるからこそ単に統計ばかりではなく、様々な推計による検討も必要であることはつとに認識されてきていることと思われれます。我が学会において一層の中国経済研究の必要性が痛感される場所です。

また、前代表幹事が先頭に立って推進された研究の国際化、欧米の比較研究学会との交流、連携も継続していくべきと考えます。私個人は学会での国際交流には不慣れですが、バイタリティある会員の尽力により、交流が深められつつあり、一層推進していかなければならないと考えております。

最後に、当学会は着実な調査研究にもとづいて、マクロ、ミクロの経済、制度、社会の比較理論的研究を旨としていると考えますが、結局は、ユニークな人材をどれほど抱えているかが研究水準を左右すると思われれます。代表幹事として非力ではありますが、会員諸氏のご理解とご協力によって、当学会の存続・発展を図り、私に与えられた責務を全うしていきたく考えております。宜しくお願いいたします。

(代表幹事 田畑理一)

## 2013年度比較経済体制学会第53回全国大会を終えて

第53回比較経済体制学会全国大会は6月1日・2日の両日、のべ120名以上の参加を得て、新潟大学五十嵐キャンパスで開催されました。

今次大会は、本会設立50周年を締めくくるとして祝すかのように両日とも天候にも恵まれ、盛況のうちに終了しました。大会初日は久保庭真彰プログラム委員長の趣旨説明を皮切りに、初日から2日目午前まで、共通論題「比較経済

への歴史的・メタ分析的・空間的アプローチ」に基づく議論が行われ、2日目午後からは分科会による自由論題に基づく議論が行われました。

第1日目は共通論題の3つのアプローチのうち「歴史的接近」と「メタ分析的接近」について活発な議論が展開されました。「歴史的接近」のセッションでは、座長の田畑伸一郎会員の進行の下、①ソ連工業生産指数について栖原

学会員，②ソ連経済発展の貨幣的側面について中村靖会員，③社会主義破綻の経済論理について上垣彰会員ならびに杉浦史和会員の報告が行われました。これら 3 報告すべてに対するコメントを，酒井正三郎会員がお一人で見事に務められました。「メタ分析的接近」のセッションでは，座長の鈴木拓会員の進行の下，①市場経済移行と経路依存性について溝端佐登史会員・堀江典生会員，②外国資本と体制転換について岩崎一郎会員・徳永昌弘会員の報告が行われ，それぞれの報告に対して堀林巧会員，菅沼桂子会員による討論がなされました。

第 2 日目の午前は，共通論題の 3 つ目のアプローチである「空間的接近」のセッションに当てられ，①中国とアジアの経済統合について岡本信広会員，②中国東北地域と北東アジア経済協力について朱永浩会員による報告が行われ，それぞれの報告に対して植村博恭会員，新井洋史会員による討論がなされました。二日間にわたる共通論題セッションは，どのセッションも会場からの活発な質疑も加わり，充実した議論となりました。

第 2 日目午後からは，3 つの分科会に分かれた自由論題の討論に当てられました。自由論題 A では，松澤祐介会員の司会の下，タジキスタン移民の海外送金インパクトについて Sultonov Mirzosaid 会員，セルビア，クロアチアの輸出競争力について吉井昌彦会員による報告が行われ，それぞれの報告に対してカン・ビクトリヤ会員，小山洋司会員による討論がなされました。

自由論題 B では，久保庭真彰会員（前代表幹事）の司会の下，アラル海救済の現代史について地田徹朗会員，中古品貿易と資源循環政策について阿部新会員による報告が行われ，それぞ

れの報告に対して徳永昌弘会員，中谷勇介会員による討論がなされました。

自由論題 C では，白石麻保会員の司会の下，中国地方政府の行動比較について穆堯芋会員，北朝鮮における企業集団の結成要因について柳学洙会員による報告が行われ，それぞれの報告に対して横川和穂会員，藤原克美会員による討論がなされました。

以上，2 日間にわたって，共通論題，自由論題のいずれについても非常に活発な議論が行われました。遠路ご来場いただいた会員の皆様に改めて厚く御礼申し上げます。また，久保庭真彰プログラム委員長ならびにプログラム委員の中村靖会員，木崎翠会員，雲和広会員のご尽力により，このような盛況な大会プログラムが実現いたしましたことにも深謝申し上げます。

最後に，大会組織委員である岩崎一郎委員，堀江典生委員，新井洋史委員，朱永浩委員，大会前々日から岩崎委員とともに駆けつけてくださった志田仁完会員，柳学洙会員，田畑理一会員（新代表幹事）からは，今次大会開催準備ならびに大会を盛り上げようと多岐にわたり惜しみないサポートを賜りました。また大会当日は，佐藤嘉寿子会員，菅沼桂子会員，浅川あや子会員からも臨機応変にサポートいただきました。言葉ではとても表現し尽せませんが，皆様方全員に心より厚く御礼申し上げます。そして大会開催までの長きにわたり細やかなご指導をいただいた学会事務局の杉浦史和会員，雲和広会員にも深く御礼申し上げます。

なお，今次大会開催に際し，新潟大学経済学部経済学会より学会開催助成を，（公財）新潟観光コンベンション協会よりコンベンション開催補助金を賜りましたことを申し添えます。

（道上真有・大会組織委員長）

## 2013 年度比較経済体制学会 第 12 回秋期大会のお知らせ

### －自由論題報告者の募集－

下記のとおり，比較経済体制学会第 12 回秋期大会を開催いたします。つきましては，自由論題報告の報告者を募集致します。若手，中堅，ベテランを問わず奮ってご応募ください。報告希望者は，2013 年 7 月末日までに，プログラム委員長・林裕明会員へ，Eメール（h-hayashi<at mark>u-shimane.ac.jp）でお申し込みください。

#### （1）募集報告テーマ

- 各国経済・地域の現状，制度，経済政策，比較など
- 比較経済分析，国際比較の理論，方法論など
- 経済体制理論，資本主義多様性論，経済発展論など
- 経済統合，国際経済，国際金融など



## 会場最寄駅と周辺地図



## 編集委員会からのお知らせ

学会機関誌『比較経済研究』（英語名称：Japanese Journal of Comparative Economics）は、レフェリー制投稿誌として、年2回発行しています。

投稿原稿（論文（400字×55枚以内）、研究ノート（400字×45枚以内）、書評（400字×17枚以内））を募集中です。原稿は随時受け付けていますが、次号51巻1号（2014年1月刊行予定）の投稿〆切は、2013年8月末です。同号に掲載ご希望の会員は、藤原克美編集委員（fujiwara<at mark>lang.osaka-u.ac.jp）に、原稿をご提出下さい。なお、企画の都合上、掲載号が次々号となる場合がございます。続く51巻2号（2014年6月刊行予定）の投稿〆切は、2013年12月末です。こちらは井上武編集委員（takeinoue1<at mark>aol.com）が担当します。

なお、当学会に連続2年度以上在籍している若手研究者（院生会員及び年齢40歳以下の正会員）が単独執筆した機関紙掲載論文は、原則として、その全てが自動的に「研究奨励賞」の候補対象となります。応募資格を持つ会員の皆様は、とくに奮ってご投稿ください。

『比較経済研究』は、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）の登録雑誌です。最新号を含む全てのバックナンバーが閲覧可能です。どうぞ御活用ください。電子版トップページのアドレスは、

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjce/-char/ja/>  
です。

（学会機関誌編集委員会）

## 比較経済体制学会第 53 回会員総会議事録

会員総会議長に田畑理一会員が選出され、総会が開催されました。総会は、配布資料とプロジェクト資料にもとづいて進められました。以下、報告事項と審議事項に分けて記載します。

### 報告事項

まず、退会者・入会者の報告そして会務報告が事務局より行われました。日本学術会議・日本経済連合会関連の報告が資料に基づき行われました。学会奨励賞の審査が進んでいることの報告が行われました。編集委員会より、「機関誌投稿・執筆要項」の修正に関する報告があり、加えて学会機関誌編集について、まもなく第 2 号が発行されることが報告されました。2013 年 5 月にソウルで開催された ACES・EACES 共催コンファレンスが成功裏に終了したことが報告されました。次に、2015 年第 9 回 ICCEES 世界大会（幕張）に関する報告があり、最後に

2013 年秋期大会（日本大学）準備状況の説明が行われました。

### 審議事項

西村可明会員・加藤志津子会員を選挙管理委員とすることが承認され、幹事並びに会計監査委員選挙が行われました。

2012 年度決算・2013 年度予算が承認されました。

役員選挙の結果、幹事については、東日本では岩崎一郎、木崎翠、雲和広、田畑伸一郎、酒井正三郎、鈴木拓、栖原学、丸川知雄、道上真有各会員が、西日本では上垣彰、田畑理一（徳永昌弘、溝端佐登史、堀江典生各会員が選出されました。会計監査については、斉藤久美子・小西豊両会員が選出されました。

### 役員選挙結果

西村可明会員、加藤志津子会員を選挙管理委員とし、事務局作成の幹事被選挙人名簿、会計監査被選挙人名簿にもとづいて投票が行われました。

開票結果は以下のとおりでした。投票総数は 39 票でした。

#### 幹事投票結果

東日本	票数	西日本	票数
1 田畑伸一郎	30	1 上垣彰	22
2 岩崎一郎	28	2 堀江典生	19
3 酒井正三郎	21	3 徳永昌弘	18
4 丸川知雄	21	4 溝端佐登史	18
5 道上真有	18	5 田畑理一	15
6 栖原学	13	家本博一	7 次点
7 雲和広	11		
8 木崎翠	10		
9 鈴木拓	10		
安達祐子	9 次点		

---

## 会計監査投票結果 票数

1 斎藤久美子	16
2 道上真有	5 幹事に当選
3 小西豊	3
堀江典生	2 幹事に当選
富山栄子	2 次点
田畑伸一郎	2 幹事に当選
栖原学	2 次点
菅沼桂子	2 次点
酒井正三郎	2 幹事に当選
木崎翠	2 幹事に当選
加藤志津子	2 次点
家本博一	2 次点

選任された新役員は以下のとおりです。

### 幹事

#### 東日本地区

岩崎一郎（一橋大学）、木崎翠（横浜国立大学）、雲和広（一橋大学）、田畑伸一郎（北海道大学）、酒井正三郎（中央大学）、鈴木拓（帝京大学）、栖原学（日本大学）、丸川知雄（東京大学）、道上真有（新潟大学）

#### 西日本地区

上垣彰（西南学院大学）、田畑理一（大阪市立大学）、徳永昌弘（関西大学）、溝端佐登史（京都大学）、堀江典生（富山大学）

#### 会計監査（五十音順）

小西豊（岐阜大学）、斎藤久美子（和歌山大学）

#### 事務局幹事

道上真有（統括）、岩崎一郎（会計）、堀江典生（メンバーシップ・Web サイト）

## 新入会員のご紹介

2012 年度全国大会・総会以降に入会なされた会員をご紹介します（事務局受付順）。

- ・川内亜希子（京都大学大学院） 推薦者：  
溝端佐登史会員・藤原克美会員
- ・穆 堯芋（環日本海経済研究所） 推薦者：  
堀江典生会員・朱永浩会員

- ・地田徹朗氏（北海道大学スラブ研究センター） 推薦者：杉浦史和会員・雲和広会員
- ・楊錦華（ヨウ キンカ）氏（帝京大学経済学部） 推薦者：鈴木拓会員・杉浦史和会員
- ・岡崎 拓氏（神戸大学大学院経済学研究科） 推薦者：吉井昌彦会員・家本博一会員
- ・SULTONOV Mirzosaid 氏（神戸大学大学院経済学研究科） 推薦者：吉井昌彦会員・溝端佐登史会員

---

## 幹事会だより

大会前日、総会に先立ち、第五回幹事会が行われました。出席3分の2以上で幹事会は成立しました。総会議事と重複する部分もありますが、以下議事録をご紹介します。

### 報告事項

冒頭に、前回幹事会議事録および持ち回り議事録の確認が行われました。次に、入会者・退会者情報が杉浦担当幹事より示されました。

次に、2012年度会務報告、日本学術会議・日本経済学会連合関連の報告が行われました。比較経済体制学会奨励賞に関して、現在第五回奨励賞の審査委員会が組織され、審議を重ねていることが事務局より報告されました。学会誌発行・編集状況について加藤志津子編集委員長より、第2号が順調に編集されていることが報告されました。続いて2013年5月のACES・EACES 共催コンファレンスが成功裏に終わったことの報告がありました。また2015年ICCEES 幕張大会の準備状況に関する説明が上垣幹事・ICCEES 連絡幹事よりありました。2013年度秋期大会準備状況について、菅沼桂子大会組織委員長より説明されました。

2012年度決算について、事務局より説明があり、会計監査を受けた決算書が資料として提出され、承認されました。また2013年度予算も承認されました。続いて「機関誌投稿・執筆要項」の修正について編集委員会より提案があり、了承されました。次期幹事会への申し送り事項等に関し事務局より説明があり、了承されました。

以上を踏まえ、総会議題および議長候補について審議され、承認されました。

6月2日に新旧合同幹事会が開催されました。

最初に久保庭旧代表幹事よりの退任の挨拶がありました。続いて旧幹事会からの申し送り事項を事務局杉浦より説明しました。(1) ACES・EACES リエゾンの創設の是非につい

て・(2) 秋期大会プログラム委員の選出の必要性について・(3) 来年度全国大会の準備状況について、そして(4) 幹事選出の手續きにおける慣例と会則第6条①に齟齬があることについての注意喚起です。

第一回新幹事会にて、旧事務局杉浦より、代表幹事、事務局、会計、メンバーシップ・Web担当幹事の選出が必要なことを説明しました。互選を経て田畑理、道上、岩崎、堀江の各氏が順に担当となりました。日本大学秋期大会の組織委員の確定について、菅沼委員長より説明がありました。池本修一、岩崎一郎、鈴木拓、杉浦史和各会員によることとなりました。

前記申し送り事項(2)について、同大会のプログラム委員会について議論し、林裕明委員長、岩崎一郎、木崎翠、菅沼桂子、田畑理一、堀江典生各会員が各委員を務めることとなりました。

前記申し送り事項(1)について、幹事会内規を作り、任期を決めて幹事会で選出するという方針を決定しました。メールにより持ち回り幹事会で審議することとなりました。

前記申し送り事項(4)について、「重任」という言葉の意味が不明であるものの、会則の変更を視野に入れて準備を進めることとなりました。

更に酒井幹事より、日本経済学会連合評議員についての動議があり、酒井正三郎、栖原学両氏を評議員とすることに決定しました。



---

**2012 年度会計報告および 2013 年度学会予算**

\*2012 年度決算書は以下のとおりです。

---

\*2013 年度学会予算は以下のとおりです。

---

## 学会ニュース：岩崎一郎会員がロシア応用経済学国民賞選考委員会より表彰

一橋大学経済研究所の岩崎一郎会員が、ロシア応用経済学国民賞選考委員会より表彰されました。

(以下引用)

2013年4月3日、経済体制研究部門の岩崎一郎教授は、学会発表のためモスクワを訪問中、ロシア応用経済学国民賞選考委員会より、2009年に刊行した共編著 *Organization and Development of Russian Business: A Firm-Level Analysis*, Palgrave Macmillan, Basingstoke (co-authored with Tatiana G. Dolgopyatova and Andrei A. Yakovlev) に所収された論文3点 (Chapter 1, 3, 4) の研究業績に対して、特別表彰を受けました。これら一連の論文は、2011/2012年度ロシア応用経済学国民賞の最終選考作に選ばれたものであり、4月3日の表彰式では、その功績を証明する賞状が岩崎教授に授与されました。なお、大賞は、アン

ドレイ・マルケービッチ氏 (New Economic School) とマーク・ハリソン氏 (University of Warwick) による共著論文 (Andrei Markevich and Mark Harrison, "Great War, Civil War, and Recovery: Russia's National Income, 1913 to 1928," *Journal of Economic History*, Vol. 71, No. 3, 2011, pp. 672-703) が獲得しました。詳細は、ロシア応用経済学国民賞専用サイト <http://econprize.ru/> (ロシア語) でご覧になれます。

(以上一橋大学経済研究所 Web サイトより：  
[http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/pdf/info\\_0404.pdf](http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/pdf/info_0404.pdf))

岩崎会員の学術賞受賞は、2005年 NIRA 大来政策研究賞・2011年発展途上国研究奨励賞に続く快挙です。岩崎会員の栄誉を称え、共に喜びたいと思います。

(事務局)

---

### 事務局だより

すでに新事務局に移行してはいますが、ニューズレターNO.45は引き継ぎの慣例により旧事務局で作成しています。久保庭代表幹事のもとの事務局運営の二年間が終わりました。この2年間、旧幹事の方々並びに多くの会員の皆様には辛抱強くサポートしていただきました。なかなか決まらない全国大会開催校やプログラム委員長なども、2014年全国大会まで確保することができました。事務局として至らぬ点は多かったとは存じますが、おかげ様でなんとか任期を全うできました。深く御礼申し上げます。

田畑理一新代表幹事のリーダーシップの下、新しい体制が発足しました。新事務局長は、大会運営や事務局運営において、既に多方面で獅子奮迅の働きを見せておいでです。加えて、それを支える事務局陣も誠に的を射た陣容となりました。ただし、有能で経験豊かな事務局が成立したと申しましても、会員のみなさまの温かいご支援ご協力があってこそその事務局運営です。引き続き事務局運営に温かいご理解とご助力をお願い申し上げます。

(旧事務局)

---

ニューズレターNO.45 発行  
2013年07月10日

比較経済体制学会（新）事務局

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050番地  
新潟大学経済学部 道上真有  
(phone/fax) 025-262-6518  
E-mail: michigami<at mark>econ.niigata-u.ac.jp  
<http://www.jaces.info/>

メンバーシップ管理・Webサイト担当幹事 富山大学 堀江典生  
E-mail : horie<at mark>eco.u-toyama.ac.jp  
会計担当幹事 一橋大学 岩崎一郎  
E-mail : iiwasaki<at mark>ier.hit-u.ac.jp